
令和4年火災・救急・救助概要について

1 趣旨

市内において、火災予防や救急車の適正利用を促すため、令和4年中に発生した火災、救急、救助に関する概要を広く周知します。

2 対象期間

令和4年1月1日（土）～令和4年12月31日（土）

3 各概要における項目

(1) 火災概要

火災の発生状況、出火件数、焼損床面積及び損害額、火災件数の推移、出火原因、住宅火災の出火原因

(2) 救急概要

過去10年間の救急出動件数の推移、程度別、年齢区分別、事故種別

(3) 救助概要

救助隊配置体制、救助工作車配置体制、出動件数、室内閉じ込め救助件数

4 その他

令和4年火災・救急・救助概要の詳細については別添のとおり

以 上

令和4年火災概要

火災の発生状況

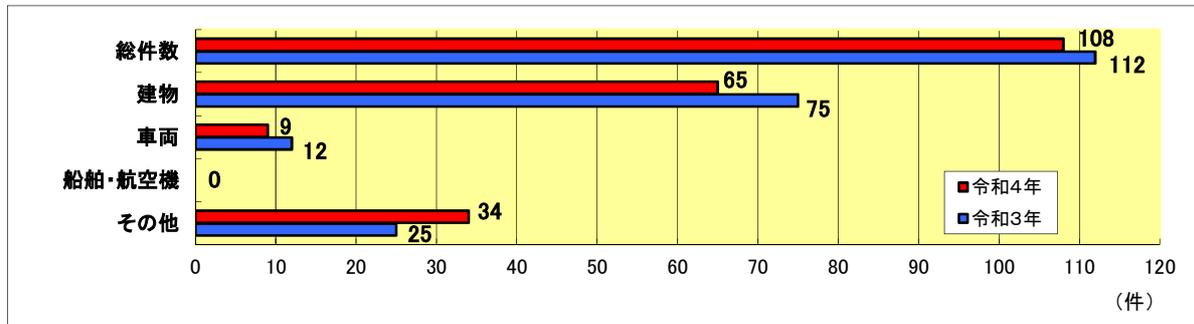
- 令和4年の火災件数は108件で、焼損床面積は1,104㎡、損害額は76,823千円、死者2名、負傷者19名となりました。

令和4年	
件数	108件
焼損床面積	1,104㎡
損害額	76,823千円
死者	2名
負傷者	19名

令和3年	
件数	112件
焼損床面積	2,097㎡
損害額	166,440千円
死者	7名
負傷者	29名

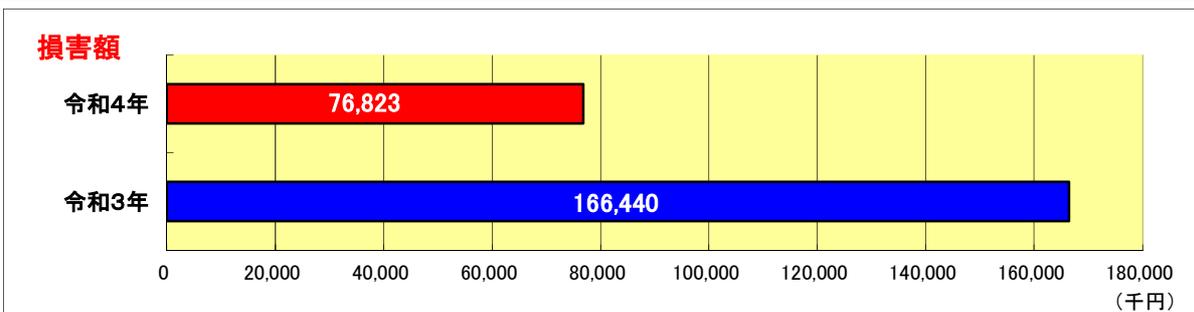
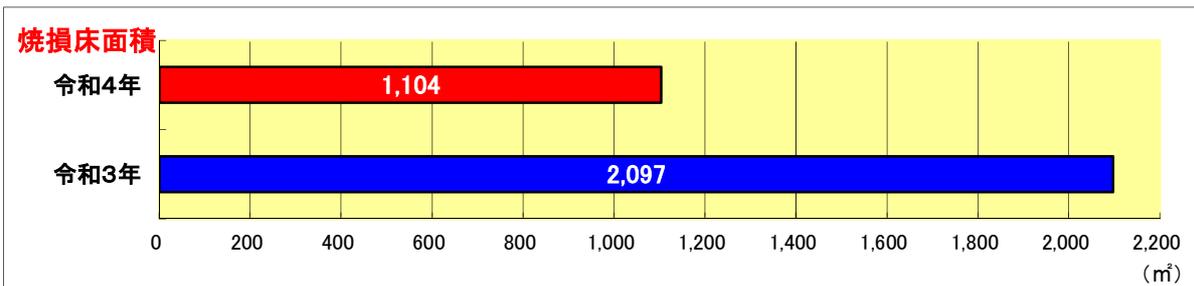
出火件数

- 出火件数は、前年の112件から4件減少し、108件となりました。
- 火災種別ごとでは「建物火災」が65件で10件減少、「車両火災」が9件で3件減少、船舶火災、「航空機火災」は共に0件で、「その他火災」が34件で9件増加しました。



焼損床面積及び損害額

- 焼損床面積は、前年の2,097㎡から993㎡減少の1,104㎡、損害額は前年の166,440千円から89,617千円減少の76,823千円となりました。



火災件数の推移

- 令和4年は108件で、前年より4件の減少となりました。
- 過去10年間の平均は120.6件です。

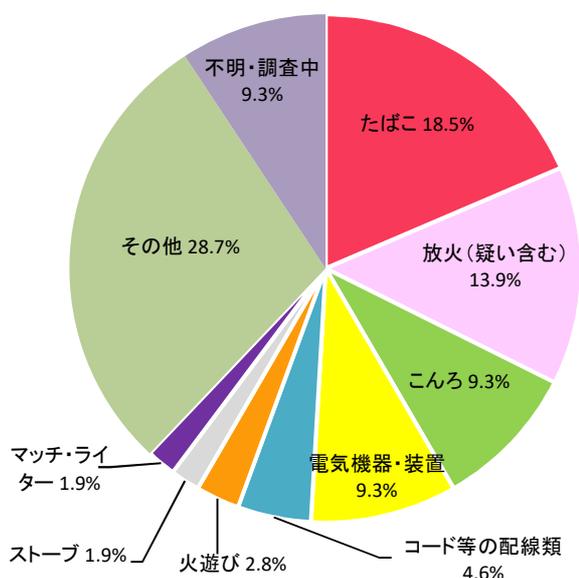


出火原因

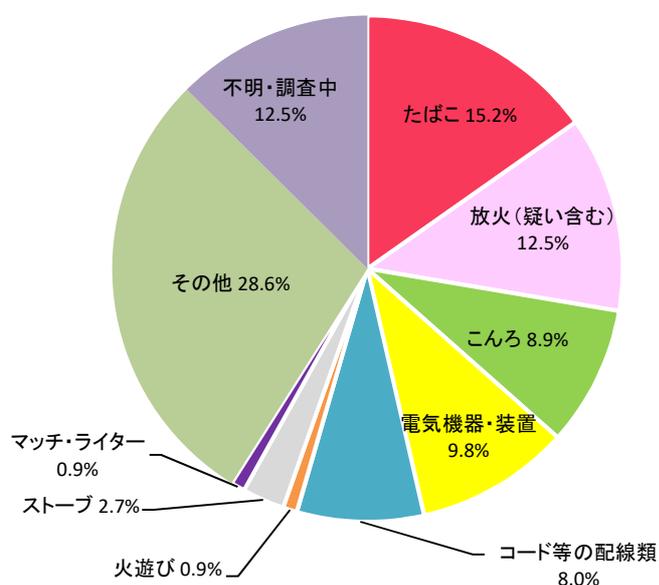
- 主な出火原因をみると、1位は「たばこ」の20件で3件の増加、2位は「放火（疑い含む）」の15件で1件の増加、3位は「こんろ」と「電気機器・装置」が同数の10件で、「こんろ」は増減なし、「電気機器・装置」は1件の減少となりました。
- 各出火原因の全体に占める割合は、上位から「たばこ」、「放火（疑い含む）」、「こんろ」及び「電気機器・装置」となり、合計件数は55件で、割合は50.9%となりました。

区分	令和4年	令和3年
たばこ	20件	17件
放火(疑い含む)	15件	14件
こんろ	10件	10件
電気機器・装置	10件	11件
コード等の配線類	5件	9件
火遊び	3件	1件
ストーブ	2件	3件
マッチ・ライター	2件	1件
その他	31件	32件
不明・調査中	10件	14件
合計	108件	112件

令和4年



令和3年



※四捨五入しており、100%にならない場合があります。

住宅火災の出火原因

- 住宅やアパート・マンションなど住宅火災全体の件数は36件で、前年の34件から2件の増加となっています。
- 令和4年の出火件数108件に占める住宅火災の割合は、33.3%となりました。
- 住宅火災における出火原因の主なものとして、「こんろ」、「たばこ」となり、その原因が住宅火災全体を占める割合は50.0%となりました。

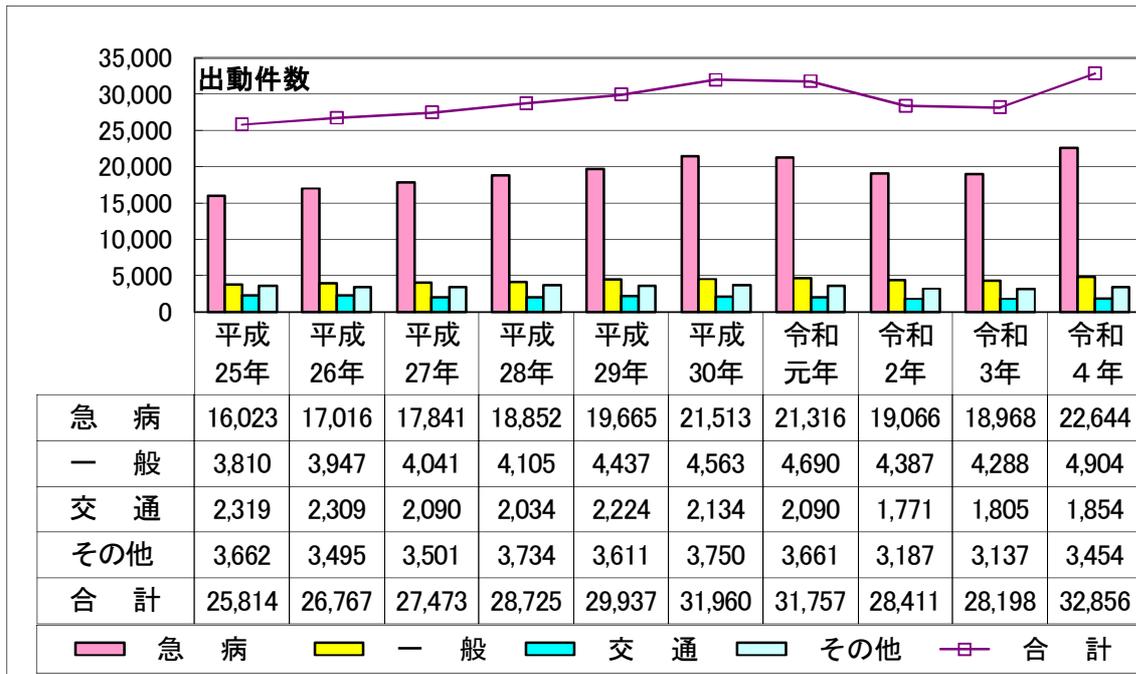
建物別	年別	計	放火（疑い含む）	たばこ	こんろ	火遊び	マッチ・ライター	ストーブ	電気機器・装置	コード等の配線類	その他	不明・調査中
一般住宅	令和4年	18	1	5	3	1	1	1	3	2		1
	令和3年	16	4	2	1			2	1	2	2	2
併用住宅	令和4年	1			1							
	令和3年											
共同住宅	令和4年	17	1	5	4		1	1	1		3	1
	令和3年	18		5	5				1	1	3	3
合計	令和4年	36	2	10	8	1	2	2	4	2	3	2
	令和3年	34	4	7	6			2	2	3	5	5

令和4年救急概要

令和4年中における救急出動件数は32,856件（前年28,198件）で4,658件（16.5%）の増加となり、搬送人員は26,330人（前年23,313人）で3,017人（12.9%）の増加となっている。1日平均は90件（前年77件）で約16分に1件の割合で救急隊が出動したことになります。

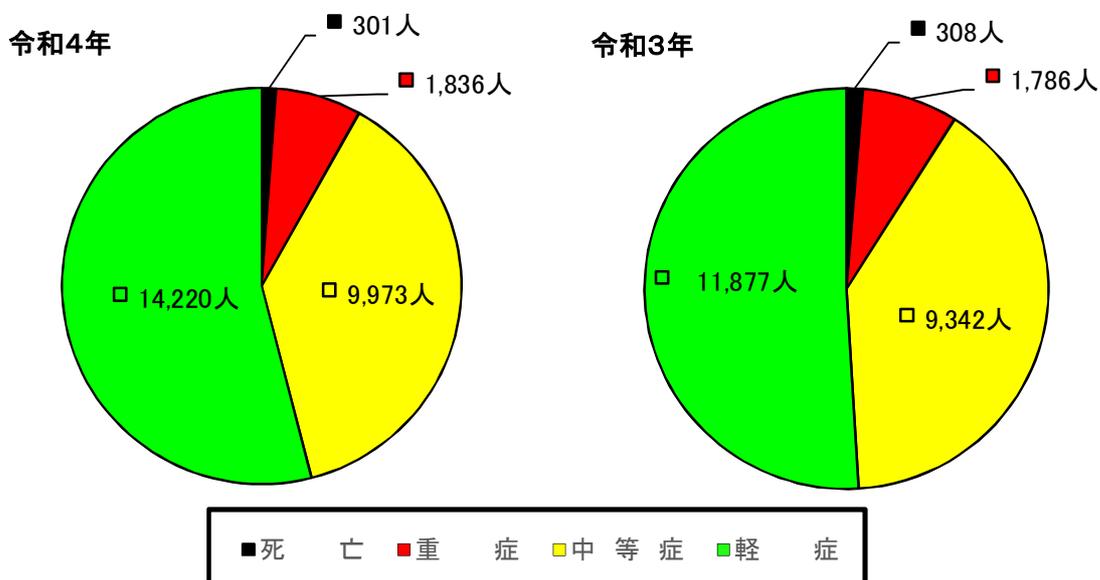
過去10年間の救急出動件数の推移

- 過去10年間の救急出動件数をみると、平成30年までは毎年増加、令和元年からは3年連続で減少に転じたが、令和4年は、増加となった。



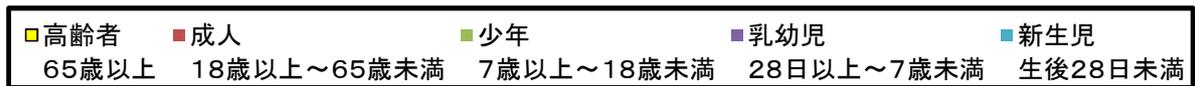
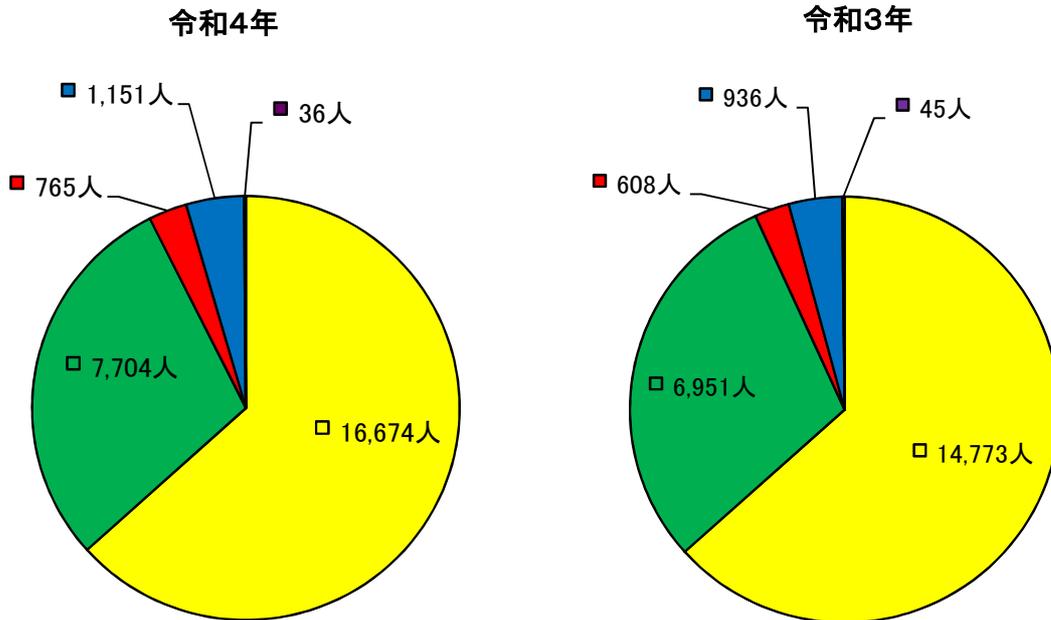
程度別

- 搬送人員を程度別にみると、軽症14,220人（前年11,877人）で2,343人（19.7%）の増加、中等症9,973人（前年9,342人）で631人（6.8%）の増加、重症1,836人（前年1,786人）で50人（2.8%）の増加、死亡301人（前年308人）で7人（2.3%）の減少となっている。



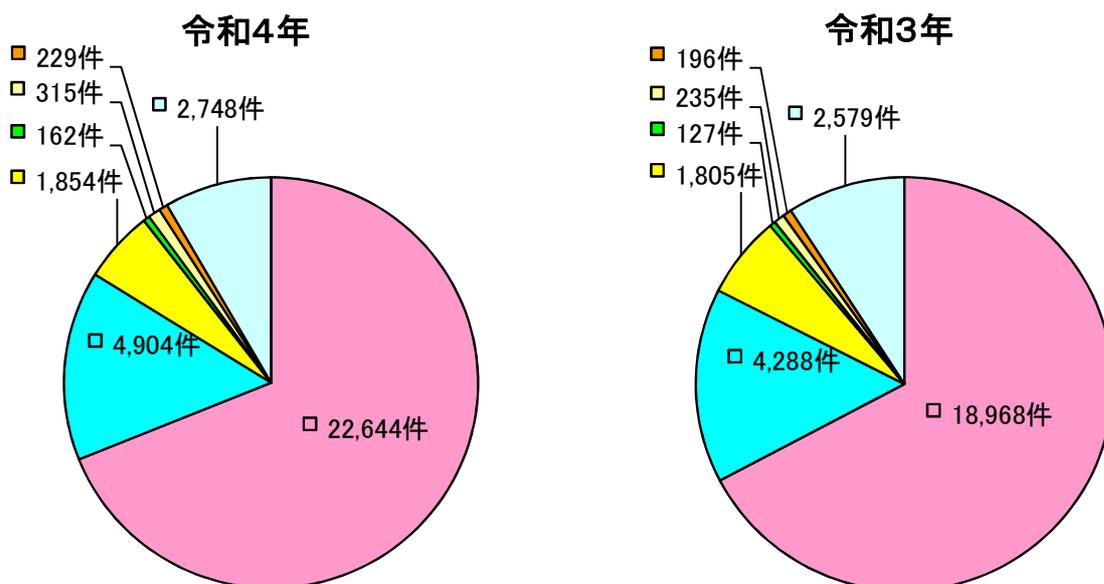
年齢区分別

- 搬送人員を年齢区分別にみると、高齢者が16,674人で最も多く、全体の63.3%で、以下、成人、乳幼児、少年、新生児の順になっています。



事故別

- 出動件数を事故別で見ると、急病が最も多く全体の68.9%で、以下、一般負傷、交通事故の順になっています。



令和4年救助概要

- 本市の救助体制は、高度救助隊1隊、特別救助隊1隊、署救助隊2隊、水難救助隊1隊で計5隊の救助隊を配置しています。
- 救助工作車は2台を有し、市域の南部に1台、北部に1台を配置し、あらゆる災害における救助体制の拡充、強化を図っています。
- 令和4年の救助件数は700件（前年630件）で70件（11.1%）増加し、出動隊数は1,192隊（前年1,154隊）で38隊（3.3%）の増加となっており、事故別に見ると、建物等による事故が最も多くなっています。
- 近年では、室内閉じ込め救助が増加しています。この室内閉じ込め救助とは、何らかの理由により、自力でドアを開けて外に出られなくなった又は室内に人がいると思われるが、安否の確認が出来ない状態のことであり、救助出動件数700件のうち437件（62.4%）がこの室内閉じ込め救助出動となっています。

